

I 事務事業基本情報

総合計画統括CD	04 09 01 07	重点政策分類	環境	所管部課	経済環境部農務課			
事務事業名	堆肥センター施設整備事業			担当課長名	佐々木 剛			
総合計画分類	CD	名 称			作成者名	阿部 貞征		
政策	04	都市基盤・生活環境			担当歴	平成 29 年度から		
施策	09	地球環境の保全			電話(内線)	522		
基本事業	01	地球温暖化防止に向けた再生可能エネルギーの活用促進			事業年度	開始年度 H21年度 終了(予定)年度 -		
H29会計区分	1	一般会計				新継区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続	
予算科目	款	6	農林水産業費				経費区分	<input type="checkbox"/> 政策 <input checked="" type="checkbox"/> 投資 <input type="checkbox"/> その他
	項	1	農業費				補助・単独区分	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
	目	3	畜産業費				根拠法令・個別計画等	事業実施の根拠となる法令、条例、規則、要綱及び個別計画を全て記載 伊達市堆肥センター条例 伊達市堆肥センター条例施行規則
予算書上の事務事業名	堆肥センター維持管理費							

II 事務事業概要

対 象	誰を、または何を対象とした事務事業なのかを具体的に記載		執行形態		事務事業の執行方法をチェック <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担金 <input type="checkbox"/> 市民と協働 (委託・交付先等:)							
	通年で安定的に市内有機資源物の受入するための堆肥センター内設備の維持補修。											
目 的	当該事務事業が何をねらいとし、対象をどのような状態にしたいのか。また、どのような成果を目指しているのかを具体的に記載											
	堆肥センターでは、産業廃棄物である家畜ふん尿や一般廃棄物である水産系雑物などを有機資源物として受入することで資源の有効活用を図っており、年間を通して利用頻度が高いため、施設や設備の維持補修を計画的に行うことで年間を通して安定的に受入できるような体制を確保する必要がある。また、予備的な発酵棟を増設することで、既存施設の抜本的な修繕・改修を行える状況を確保することができる。また、施設全体の長寿命化を図れるほか、突発的な受入量の増加にも対応することができる。											
	成 果	成果指標名	単位	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 目標値	「目的」がどの程度達成されたか(成果)を測定できる適切な指標(数値等)を最低1以上設定して記載		
		① 有機資源物受入量	t	13,745	11,881	10,978	13,878	12,457	15,000			
② 製品堆肥出荷量	t	5,665	5,069	4,270	11,890	3,991	6,500					
③												
成果指標の考え方・計算根拠等	年間を通して原料の受入及び製品堆肥の出荷ができるのに想定される受入量の最大値から、出荷可能な量を算出。											
総合計画の成果指標に係る活動成果	重点政策(食・教育・生きがい・環境)については、総合計画「Ⅲ-2重点政策」(P16~P23)で定めた成果指標について記載											
手 段	上記目的を達成するために、どのような方法で事務事業を実施したのかを具体的に記載											
	堆肥センター内の施設及び設備の改修工事、修繕工事、更新の実施 平成29年度: 破袋機用ベルトコンベヤ修繕、自動火災報知設備修繕、高圧洗浄機更新 平成30年度: 1次発酵棟及び2次発酵棟の屋根補強工事、給水ポンプ修繕											
	活動実績	活動指標名	単位	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 目標値	「手段」として提供した行政サービスや活動の実績を指標(数値等)に表して記載		
		1 施設の長寿命化・増設に係る費用	千円	21,966		2,295			1,804			
2 堆肥製造に係る設備の更新・改修費用	千円	12,789			27,558	1,197	500					
3												
活動指標の考え方・計算根拠等	年間を通して原料の受入及び製品堆肥の出荷を安定的にできるよう、堆肥センター内の施設及び設備の現状を把握し、年度ごとに計画的な更新・修繕を行う。											
事務事業の現状と課題	事業の現状と事業を進めていくうえで課題となっていた事項を記載											
	① 堆肥製造過程で発生するアンモニアガスによる臭気及び施設設備の腐食に対する対応。 ② 突発的な理由による有機資源物の受入場所や、出荷遅れとなった場合の製品堆肥の一時保管場所の確保。 ③ 新たな発酵棟建設のための敷地の確保。											
改善点	上記の現状と課題に対し、当該年度の重点取り組み事項、設定した目標を具体的に記載											
	① 堆肥センター内の施設設備の現状を把握し、計画的な更新・修繕を行う。 ② ③既存の敷地では十分なスペースを確保できないため、隣接する新たな敷地の確保の調査検討を行う。											
	上記の重点的取り組み事項、設定した目標に対する改善内容及び検討(実施)中の改善内容及び当該年度を記載											
改善点	<input type="checkbox"/>	(平成29又は30年度) 既に改善済	<input type="checkbox"/> 事業内容 <input type="checkbox"/> 投入経費 <input type="checkbox"/> 人員の配置 <input type="checkbox"/> その他									
	<input checked="" type="checkbox"/>	(平成30年度) 改善を検討中(又は実施中)	<input type="checkbox"/> 事業内容 <input type="checkbox"/> 投入経費 <input type="checkbox"/> 人員の配置 <input checked="" type="checkbox"/> その他	堆肥センターの維持管理業務委託している櫛ひんけいりサイクルセンターと連携し、施設設備の計画的な更新・修繕箇所について具体的に調査検討している。							併せて、臭気問題についても既存の土壌脱臭を改良・更新しながら、脱臭効果の向上を目指している。	

平成 29 年度実施事業		総合計画統括CD 04 09 01 07		重点政策分類	環境	所管部課	経済環境部農務課
事務事業名	堆肥センター施設整備事業				CD	担当課長名	佐々木 剛
					07	作成者名	阿部 員征

Ⅲ 投入経費 (input)

投入経費 区分	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)
直接事業費 (A) 千円	34,755千円		2,295千円	27,558千円	1,197千円	2,304千円
国・道支出金 千円	21,714千円					
地方債 千円						
その他特財 千円						
一般財源 千円	13,041千円		2,295千円	27,558千円	1,197千円	2,304千円
参考人件費 (B) 千円	548千円	582千円	579千円	1,147千円	1,702千円	1,751千円
一般職員 千円	548千円	582千円	579千円	1,147千円	1,702千円	1,751千円
一人当たり年間平均給与 千円	5,481千円	5,821千円	5,794千円	5,733千円	5,673千円	5,835千円
投入人員 人	0.10人	0.10人	0.10人	0.20人	0.30人	0.30人
嘱託職員 千円						
一人当たり年間平均賃金 千円	2,365千円	2,428千円	2,550千円	2,602千円	2,664千円	2,722千円
投入人員 人						
臨時職員 千円						
一人当たり年間平均賃金 千円						
投入人員 人						
投入経費 C=(A+B) 千円	35,303千円	582千円	2,874千円	28,705千円	2,899千円	4,055千円
人件費比率 D=(B/C) %	1.6%	100.0%	20.2%	4.0%	58.7%	43.2%

Ⅳ 一次評価

評価の視点	評価	判断理由 (左記の評価を選択した理由を具体的に記載)
観 点 別 評 価	目的妥当性 今後も市が主体または関与して事務事業を行っていくことは妥当か？ <input type="checkbox"/> 法律等で義務付けられている <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	(法律等名称：) 市内有機資源物の再利用の推進、ゴミの減量化、良質な堆肥施肥による土壌改良等に貢献しており、公共性も高いため、公設公営で行う必要がある。
	有効性① 成果が出ているか？ <input type="checkbox"/> 目標とする成果が出ている <input checked="" type="checkbox"/> 少し成果が出ている <input type="checkbox"/> 思うように成果が出ない	施設設備の修繕更新を計画的に行うことで、安定的、継続的に有機資源物の受入と製品堆肥の供給を行うことができています。
	有効性② 成果を向上させることはできるか？ <input type="checkbox"/> 大きく向上できる <input checked="" type="checkbox"/> 向上できる <input type="checkbox"/> 向上は難しい	予備的な発酵棟を増設することで、突発的な有機資源物の受入や出荷遅れの堆肥の一時保管を行うことが可能となる。また、スペースに余裕ができて、施設設備の長寿命化に向けた抜本的保守点検も可能となる。
	効率性 妥当な経費で事業が執行されているか？または、成果を落とさずに投入経費を削減することはできるか？ <input checked="" type="checkbox"/> 経費削減は可能 <input type="checkbox"/> 経費削減は難しい	計画的な更新、修繕を行うことで、突発的な施設の破損及び設備の故障等による高額な支出のリスクを低減できる。
	公平性 事業が一部受益者に偏っていないか？受益と負担のバランスは妥当か？ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	受入を行っている有機資源物には、市内の一般家庭から排出される生ごみも含まれているため、公平性は保たれている。

今後の方向性	方向性の判断理由 (左記の方向性を選択した理由を具体的に記載)
総合一次評価 <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	市堆肥センターが担う役割として、市民向け剪定枝等無償受入による市民サービスの提供、農業者からの家畜糞尿や漁業者からの水産系雑物を有機資源物として受入することで事業者の経費節減に貢献、良質な製品堆肥を格安で市民や農業者に還元、生ごみを有機資源物として受入することでごみの減量化、などが挙げられ、これらは継続していく必要がある。 また、計画的な施設設備の更新修繕を行っていくことで、長期間、安定的に有機資源物の受入と製品堆肥の出荷が可能となり、突発的な施設の破損や設備の故障に対する高額な支出リスクも低減できるため。

担当課長コメント	事業の進捗状況及び今後の展望等について記載 臭気・腐食対策としてこれまで実証実験を行ってきたが、安定した効果が得られるものが見出されておらず、手詰まりの状況。対策について新たな手法も検討しながら、現在の施設を必要の都度修繕し、最大限活用していきたい。
-----------------	--

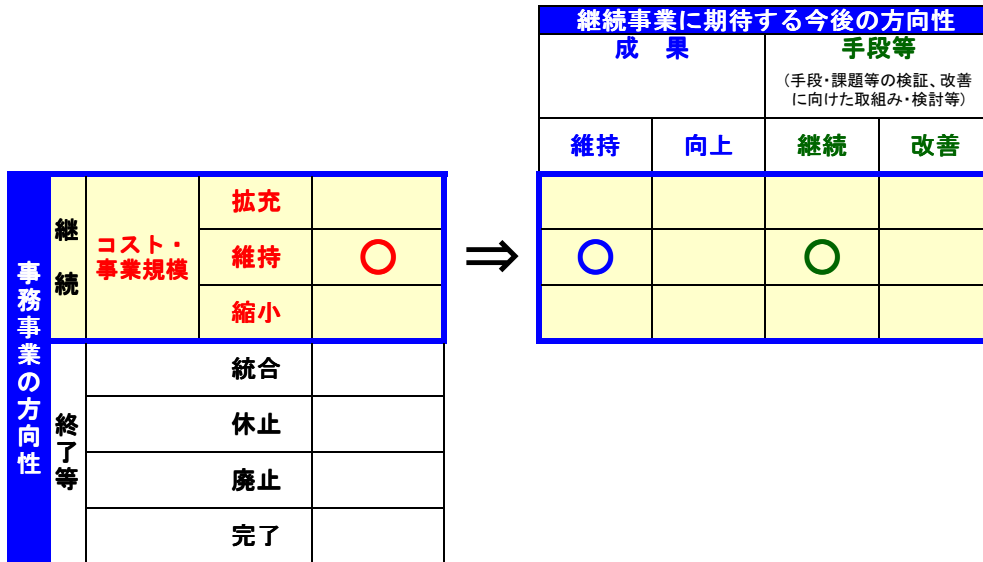
◆ 事務事業評価会議の検討内容

平成 29 年度実施事業		総合計画統括CD		04	09	01	07	重点政策分類	環境	所管部課	経済環境部農務課
事務事業名	堆肥センター施設整備事業							事業CD	07	担当課長名	佐々木 剛
										作成者名	阿部 員征

1 二次評価

評価項目	評価の視点			評価
	評価の凡例	評価項目の求める水準を達成している。	○	
観点別再評価	目的妥当性	今後も市が主体、または関与して実施することが妥当である。		○
	有効性①	成果が出ている。または、事務事業の目的が達成されている。		△
	有効性②	評価の凡例	今後、成果を向上することができる。または、成果を向上させる余地がある。	○
			大きく向上できる	△
	効率性	妥当な経費で事業を執行している。		○
	公平性	受益と負担のバランスは適当である。		○
事業ランク評価	総合計画上の視点	総合計画における当該事業の位置付けが明確であり、かつ本計画の施策の推進に貢献度が高いと認められる。		○
	事業の必要性の視点	既に明らかとなっている課題や、今後予想される課題の解消に向けて、当該事業の必要性が真に認められる。		○
	事業効果の検証の視点	事業の効果が客観的に検証されている。または、事業の効果が現れていない場合にあっても、その原因を分析し、有効な方策が検討または実行されている。		○

2 二次評価に基づき期待する今後の事務事業の方向性



3 その他（特記事項・評価に関する補足事項等）

堆肥センターの役割は環境面からも重要であるため、安定的な稼働を維持できるよう今後も計画的に維持改修を継続していくことを期待します。